

# オリンピックピックプラザに巨大テント

## 芸術とスポーツのジヨイント興行

### ●成功裏に終えた「サルティンバンコ」公演●

はじめに

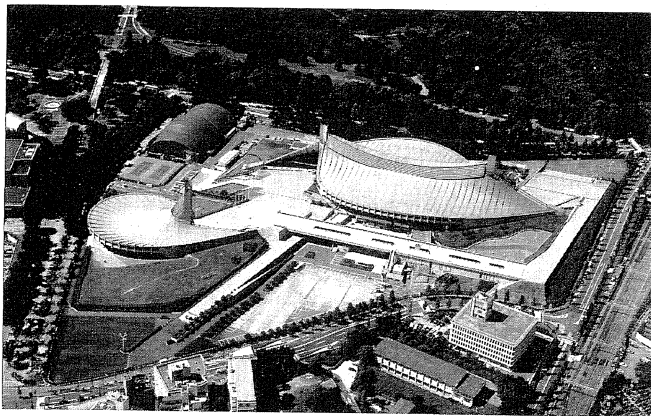
今年2月下旬ころ、一般の方から偶然、筆者のところへ「あのブルーの巨大なテントは何ですか」と一本の電話があった。

当時、国立代々木競技場オリンピックプラザでは、縦77m、横44m、高さ15m（一部19m）の超大型仮設テントが急ピッチで建設されていた。このテントの空間には柱はなく、全体の床は舞台として、残りのほとんどは客席で占められており、その大きさは、6階建てのビルがすっぽり入る程である。

同テントの収容人員は、2502人であり、ジャンボジェット機に換算すると5倍の規模にも及ぶ。冒頭の「一般の方」ならずとも、一体あのテントで何が行われるのか興味深いことと思われる。

#### 貸付への経過

昨年2月、フジテレビジョン事業



局より、オリンピックピックプラザを使用して「サルティンバンコの公演」を行いたいとの申し出があった。

当時の設置場所は、旧子供水泳場を中心とした約4500㎡の敷地を指すものであり、部内的には「西側広場」と称していた。

2年前、子供水泳場をサブプール中庭に移設した後、敷地の後利用については、種々検討されてきた。しかし、代々木競技場は種々の規制があることから本格的な建物の建設が困難となり、当面、屋外の簡易型体育施設として、平面舗装、アンカーブロック、雨水溝などの整備を行い、スポーツ（ストリートバスケット、ビーチバレー、壁打ちテニスなど）の利用を第一義として、その他仮設テントによる文化的事業にも貸付しようとの方針を固めた矢先のことであった。

また、3年程前、代々木競技場第一体育館ではミュージカルサーカス「ファシナシオン」を行い、大変好評を博したことがあったが、この度の「サルティンバンコ」はそのニューバージョンであることから、公演内容に問題もなく、センターとしてこうした経過を踏まえて、貸付に踏み切ったところである。

オリンピックプラザ「サルティンバンコ」入場者月別一覧表

開催日	公開日数	公演回数	入場者数
3月	18	28	64,632
4月	26	41	91,176
5月	25	41	92,703
6月	22	32	68,732
7月	27	45	95,279
8月	24	43	101,483
9月	10	18	43,846
合計	152	248	557,851

表1

国立代々木競技場業務課第三係  
係長 赤谷 達夫



ダブルワイヤー

サーカスアート・サルティンバンコ公演  
サルティンバンコ公演は、代々木  
競技場オリンピックプラザにおいて、  
平成6年3月11日から同年9月11日  
までの6ヶ月にわたるロングランで  
行われた。

公演回数152日、公演回数28回、一  
回平均入場者数22226人(表1参  
照)。

国立競技場としては、単一行事の  
貸付期間として類例のない長期のも  
のとなった。この間の総入場者数は、  
55万人を突破し、その人気の高さが  
うかがえる。

さて、公演名でもある「サルティ  
ンバンコ」の語源は16世紀のイタリ

アで起り、現在では総じて「大道  
芸人」を意味するものである。

このサーカス団は、シルク・ド  
ゥ・ソレイユと称し、カナダのケベ  
ック州に拠点を置き、世界をまたに  
かけて活躍している。サーカス団に  
は、体操競技のゴールドメダリスト  
をはじめ、世界屈指の曲芸師、大道  
芸人が所属し、厳しい鍛練とわざを  
磨き、それを披露するさまは、「芸  
術とスポーツ」がジョイントしたよ  
うな不思議なものを見る側に与える。  
また、他のサーカスと違いトラや象  
などの動物は一切使わないため、  
「ムチの音」のないのが特徴でもあ  
る。

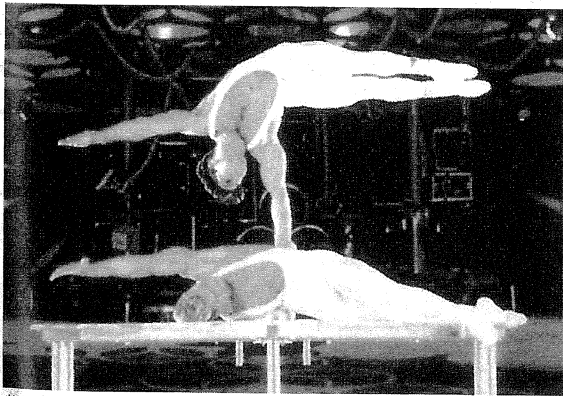
この公演には、カナダ大使館が後  
援するなど、国際文化交流としても  
極めて意義深いものがあつた。

### 見せ場

サルティンバンコが従来のサーカ  
スと異なる点は、昔のサーカス観を  
払拭し、近代化した点にある。音、  
照明、衣装、振付のすべてが新しい  
感覚に思える。誇張した言い方をす  
ると、遠く未来の「宇宙船エンター  
プライズ」か何かの中で行われてい  
るショーと錯覚させられるような演  
出効果である。

生演奏による不思議な音律、「ピ  
エロのおどけ」を基調としたミュー  
ジカルを見ているような楽しさ。そ  
れでいて、ハラハラドキドキを失わ  
ない古典性。観衆の拍手が鳴り止ま  
ないのも頷ける。

さて、出し物の一つ一つが「見ど  
ころ」ではあつたが、印象をフジテ  
レビの島田副部長はこう語っていた。  
「2年前ラスベガスで初めてショー  
を見たときダブルワイヤーの綱渡り  
に感動した。これを持って来る以外  
にないと思った。それから、チャイ  
ニーズポール、ハンド・トゥ・ハン  
ドなどは、まさに(プロ体操)と言  
う造語を創りたい程」。

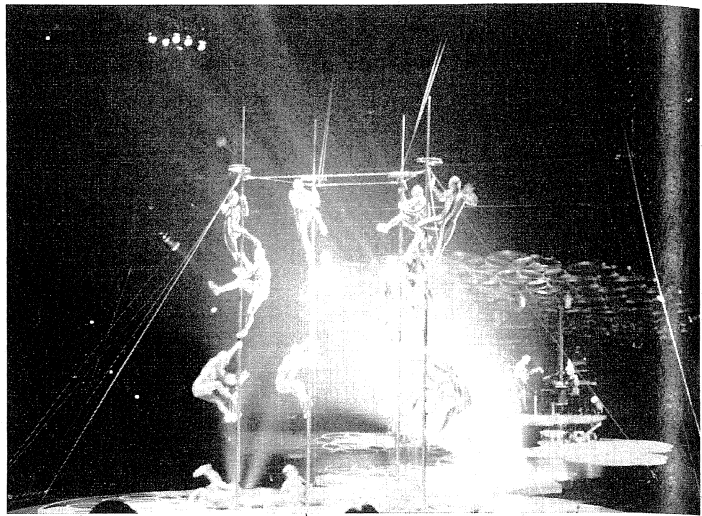


ハンド・トゥ・ハンド

なぜテント公演か

ところで、代々木競技場には、第一体育館と第二体育館の常設の施設もあるが、これらの施設は年間70%から90%の高い利用率を占め、日程上「サルティンバンコ」のようなロングランを行う余裕はない。

一方、サルティンバンコ側も常設の体育館を使用せず、サーカス本来の小屋（テント等）での公演を希望した。もともと、シルク・ドゥ・ソレイユは創設以来、カナダ、全米、ヨーロッパ公演を「ビッグ・トッ



プ」と名付けられたテントシアターで上演している。

保安規定の変更

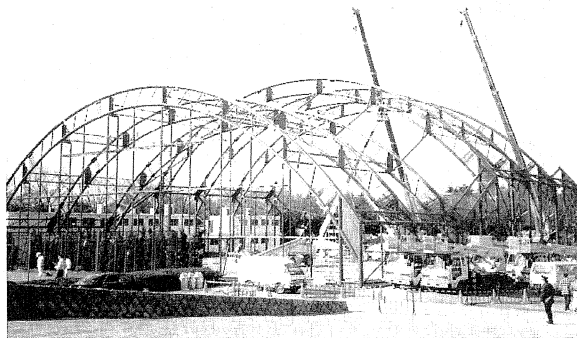
さて、代々木競技場の受電容量は2000kW以内となっているが、「サルティンバンコ」を行うにはあと500kW以上必要となった。これをクリアするには2つの方法がある。一つは、「特別高圧」の契約だが、予算化まで時間がかかり、莫大な改修工事費も伴う。

二つ目は、電気事業法で定める「保安規定の変更」である。すなわち、電気事業範囲としての「オリンピックプラザ敷地」削除（構内図の一部分削除）申請を行うことである。

今回は、後者を選択し、競技場の負担を軽くする措置をとった。この方法は、「第三回世界陸上準備事務局」（プレハブ）、最近ではセンター本部事務所建て物でも行った。

おわりに

この度、オリンピックプラザには、蒲鉾型の巨大テントを約6ヶ月間設置した。この間、雪、大雨、梅雨、



台風、猛暑と厳しい気象現象を経験した。もちろん、テントそのものはビクともしなかったが、主催者は予想もしないこの夏の記録的な猛暑には閉口したようであった。

ご承知の通り、テントは布をビニール加工したものだけに断熱効果が低いことと、色物（濃紺）の関係から熱の吸収率が強かったこともあり、館内の冷房については容易でないものがあつた。

客席はテントの下層部にあるので冷房効果も比較的よく快適であつたが、問題はテントの上層部に滞留する余熱の放逐にあつた。サーカスは高い所での出し物が多く、出演者の



汗は、手が滑るなど、時として大事故につながることもある。主催者はこの対策として、大学の研究室に依頼し、その研究の結果としてテント屋根上に「スプリングラー」を等間隔で設置した。これは霧状の散水によって気化熱として屋根裏の余熱を一気に奪おうというものである。このことにより、テント内部全体の室温を5度程度下げることが成功した。

最後に、オリンピックプラザをご利用いただき、「サルティンバンコ」公演が無事終了し、成功裏を納めたことに対しまして、主催者及び関係各位のみなさまには誌面をお借りして、衷心より感謝申し上げます。